

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
 例会場 勝山市市民交流センター
 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地
 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760
 URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>
 Email:katsuyamarc@gmail.com
 ■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子
 編集発行・文責 公共イメージ委員会

会長メッセージ

～ 縁（えにし）
を継なぐ ～



第3102回 例会 (11月25日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さん、こんにちは。本日もお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

22日・23日・24日の三連休は、勝山市内にも多くの観光客の皆さまが訪れ、街がと

ても賑わっておりました。一方、私たち市民にとっては、冬支度を進めるのにちょうど良い三連休だったのではないのでしょうか。

そんな三連休の最中ではありますが、22日には「拉致・特定失踪者問題の早期解決を願う福井県集会」が勝山で開催され、市民会館には約300人もの参加がありました。私も参加し、曾我ひとみさんのお話を直接伺う機会をいただきました。

曾我さんが拉致された時の状況、北朝鮮での生活、そして帰国後の思い、どれも言葉では言い尽くせないほど重く、胸が締め付けられる内容でした。

私自身、何ができるわけではありませんが、日本国民一人ひとりがこの問題を決して風化させてはならない、その大切さを強く感じました。

大分市佐賀関で発生した大火では、170棟という大きな被害が出ました。あらためて火災の恐ろしさを思い知らされたニュースでした。

その中でも、地域の民生委員の皆さんや消防団による高齢者の避難支援が大きく貢献したと報じられています。

しっかりと地域に根差した日頃のつながり、助け合いの大切さを、ここでも感じた次第です。

そして本日は、勝山消防署の方にお越しいただき、災害時の対応についてお話をいただきます。先週に続き、私たちの安全に直結する大変重要なテーマです。

どうか皆さま、心して耳を傾けていただければと思います。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○例会終了後、臨時理事会を開きます。

●出席報告

山内 智子

11月25日 欠席3名 85.71%
 11月18日 欠席4名 80.95%

●ニコニコ報告

織田 昌弘

遅刻
届出欠席

笠松誠一
山内政司・斎藤清一郎



本日 プログラム	総会	12月9日 プログラム	ゲスト卓話 勝山市役所	12月16日 プログラム	ゲスト卓話 勝山青年会議所	12月21日 プログラム	クリスマス 家族例会
-------------	----	----------------	----------------	-----------------	------------------	-----------------	---------------

令和6年能登半島地震と豪雨災害時の活動状況

勝山市消防署 救命救急士 栃木 源之 氏



本日はこのような場にお招きいただき、誠にありがとうございます。

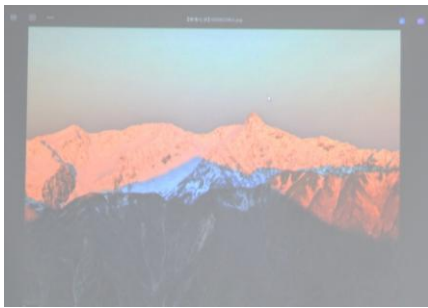
勝山消防署警防課の係長を務めております、栃木 源之（とちぎ もとゆき）と申します。出身は平泉寺の赤尾という地域でございます。

最近、熊の出没が話題になりますが、私自身は山中よりも市街地での出没が多いように感じております。

少し余談になりますが、わたくしの趣味は登山でございます。高校・大学・社会人を通して山岳部に所属し、四季を問わず活動しております。

荒島岳や白山など、頻りに山へ登っておりますが、山中では熊に遭遇することはほとんどございません。

本日は災害のお話でまいりましたが、山に関する話題でしたらいつでもご提供できますので、お気軽にお声がけください。



昨年の令和6年正月に発生いたしました能登半島地震と、同年9月の豪雨災害における、当消防隊の活動状況についてご報告させていただきます。

私どもは、大規模災害発生時には、緊急消防援助隊として福井県大隊を編成し、被災地へ出動いたします。

その際、衣食住すべてを自前でまかない、テント設営や食事の準備なども現地で行います。

1. 能登半島地震の概要と被害状況

令和6年1月1日16時10分に発生したこの地震は、マグニチュード7.6、最大震度7を記録いたしました。

これは、平成19年の能登半島地震（M6.9）と比較し、エネルギー規模が32倍にもなる甚大なものでした。

福井県大隊は珠洲市を中心に活動しましたが、現地では道路の損壊・隆起、液状化現象、建物の倒壊など、凄まじい被害が確認されました。特に古い木造建築や瓦屋根の建物の被害が目立ち、耐震性の重要性を改めて痛感いたしました。

また津波による被害や輪島市での大規模火災も発生いたしました。

倒壊した家屋や被災状況を確認した際、我々は必ず建物の壁などにスプレーでマーキングを行います。

これは、どの隊がいつ、何を検索し、生存者や要救助者の有無を確認したかを記録するためです。この記録がないと、別の隊が同じ場所を何度も検索してしまい、限られた時間と人員が無駄になってしまうため、極めて重要な作業となります。

建物の倒壊状況は壮絶で、1階部分が完全に押し潰されてしまっているケースが多数ございました。

そのため、1階からは進入できず、2階の窓を割ったり、開けたりして内部へ進入し、要救助者の有無を確認するという活動を繰り返し行いました。

現地では水道や下水が機能せず、衛生管理が大きな課題となりました。簡易トイレは準備していましたが、不足する場面もありました。本来は避けるべき行為ですが、やむを得ずスコップで穴を掘り、用を足すといったことも発生しました。

大規模災害時における「衣食住」の中でも、特に衛生面を確保することの難しさを痛感いたしました。

宿泊にはエアテントを使用しましたが、設営中に雪が降り出すなど、天候にも悩まされました。エアテントは雨には強いものの、雪が積もると屋根がたわみ、内部にいる隊員が雪の重みで圧迫される危険がありました。

また、石川県内の医療機関の機能停止に伴い、広域搬送支援として、自衛隊ヘリで福井空港に搬送された患者様を県内各病院へ搬送する活動も行いました。

2. 能登豪雨災害への対応

9月の豪雨災害においても、緊急消防援助隊として出動いたしました。

現地は河川の越水や斜面崩壊、泥や流木による道路の閉塞が発生しておりました。

我々は、孤立地区への徒歩での偵察、濁流に飲まれた方々の捜索・救出活動を実施いたしました。

特に、建物の1階部分が土砂で埋没している状況や、濁流の中での救出活動は非常に困難を極めました。

豪雨により川が越水し、泥や流木が道路や住宅に大量に流れ込んだ現場では、足場が非常に悪く、捜索活動は困難を極めました。

バギーなどの特殊車両も活用しましたが、孤立した住宅地へは徒歩で向かう必要がありました。

特に生々しいエピソードとして、建物の中に濁流が流れ込み、身動きが取れなくなった方がおられた現場での活動がございます。

濁流の勢いはすさまじく、泥水の中を手探りで捜索し、救出（ご遺体収容）にあたりました。

東日本大震災の際と同様に、長い棒で泥の中を突つきながら、人体の感触がないかを確認するという、精神的にも非常に厳しい活動でした。

家屋の1階部分が土や砂、石で埋もれてしまい、半分以上が原型をとどめていない住宅が多数ございました。我々は、土建業者の方々と連携し、流木や土砂を取り除く作業を行いながら、捜索範囲を広げていきました。

このように、私ども消防隊は、地震や豪雨など、様々な災害が発生した際に、全国・県内の隊と連携し、緊急消防援助隊として活動しております。

今後とも、地域の安全のため、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。